

日本百街道紀行

街道とまちづくり

第28回

北陸道・飛驒街道

将来にわたって持続可能な都市構築

（公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり）

富山市長（富山県） 森 雅志



はじめに

富山市は、日本海側のほぼ中央に位置し、水深1000mの「海の幸の宝庫」富山湾から標高3000m



「立山あおく特等席。富山市」（富山市のキャッチフレーズ）

級の北アルプス立山連峰までの標高差4000mの多様な地勢と雄大な自然を誇り、また古くから「薬都富山」として全国にその名が知られるように、薬業をはじめとするさまざまな産業と高度な都市機能、そして、多様な文化と歴史を併せ持つ日本海側有数の中核都市として発展を続けている。

富山のくすりと街道

「富山」の地名が歴史上初めて登場するのは、今から600年以上前の応永5年（1398年）のことです。当時は豊かな農村地帯であったと見られる。その後、戦国時代に富山城が築城され、佐々成政が城主の時代には、富山城は越中国（富山県）の政治的中心地となり、城下町の形成も始まった。そして

江戸時代になると、寛永16年（1639年）に富山藩が成立し、前田氏十万石の城下町として明治維新まで続く。

この時代には、越中の主要街道である北陸道と飛驒街道が、現在の中心市街地にある西町で交わり、日本海へと続く神通川の水上交通とも結ばれるという、水陸交通の結節点であった。また、まちなかを流れる神通川には、北陸道のルートでもあった船橋が架かっていた。この橋は、常設の船橋としては日本一の長さを誇り、まちの景観を特徴付けていたのである。

この富山で、江戸時代中期の元禄時代ごろから成長を始めた産業が売薬業である。「先用後利」の富山の売薬は全国に知られており、この300年を越える伝統を受け

継いで、医薬品製造業が富山経済の柱の一つとなっている。

では、なぜ富山売薬は、全国に商圏を展開し、日本一の売薬業に成長できたのか。その理由としては、配置販売商法をいち早く導入したことなどが挙げられるが、もう一つ、地の利という点もあ



富山の配置薬とお土産の紙ふうせん

る。それは、富山が日本列島の中ほどに位置しており、街道によって江戸や上方、中京方面へも行きやすく、また東岩瀬港などを拠点とした、日本海の北前船による大量輸送も利用できたことである。売薬商人たちは、一般的には春と秋の年2回、得意先廻りの旅に出る。鉄道のない時代に西国方面へ

旅立つ際、売薬商人の家族たちは西郊の呉羽山まで見送るのが習わしだった。現在も、呉羽山の明神峠付近には北陸道の旧道が残り、かつての売薬商人の旅を偲ばせてくれる。

江戸時代の富山は、売薬業の膨大な需要を背景として、薬売り・薬作りの両面で各種の関連産業が発達し、「産業都市」と呼ぶにふさわしい地域であった。また周辺で



富山城と市内電車環状線

も、水橋などに売薬業を派生させ、八尾の和紙のような関連産業も育てていった。このような地域の産業集積が、製薬業にとどまらず関連する印刷デザイン、情報産業など今日の本市の産業の礎となっている。

街道、車道、鉄道

こうしたさまざまな産業の発展に伴い、鉄軌道が敷設されるとともに、社会は車中心の生活へと変貌していった。近代においては、市街地は拡散し過度な自動車依存により公共交通が衰退してきた。加えて、少子高齢社会の進行や人口減少は地域経済の縮小、行政ニーズを増大させるなど、行政運営に大きな影響を与えるものとなってきている。

そこで、本市では、将来にわたって持続可能な都市を構築していくために、これまで十余年、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を政策の基本に、必ずしも自動車に頼らなくても歩いて暮らせる生

活環境の形成を目指し、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の諸機能を集積させることで、地域に必要な都市機能の集約化（拠点化）と公共交通等のネットワーク整備の強化を図っている。近年では、都心地区や公共交通沿線地区を中心に人口の社会増が続き、市内の全用途の平均地価の上昇な

ど効果がいくつも現れ始めている。今後は、これまでの成果をさらに発展させて、豊かな自然と高度な都市機能を併せ持つ、この富山市を市民の誇りとして将来の世代へ引き継ぐとともに、多くの方から「訪れてみたい」「住んでみたい」と思われる誰からも選ばれる魅力あるまちとなるよう取り組んでまいります。

一口メモ

東西の北陸道と南北の飛騨街道が交わり、日本海とも結ばれた水陸交通の要衝

加賀百万石の支藩として栄えた商都・富山。南北に走る飛騨街道は、美濃国を通る中山道と越中、日本海とを結んでおり、ほぼ現在の国道41号にあたる。東西に走る北陸道は、都から佐渡国府に通じていた古代の官道の道筋とおおよそ重なっている。親不知などを通る難路であったが、古くは京と、後に江戸と北陸とを結ぶ要路であった。



企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」